

第4章 計画の推進にあたって

この計画を着実に推進するためには、行政はもとより、家庭や地域、学校、企業等がそれぞれの役割を果たしながら、相互に連携し、取組を進めていくことが大切です。

そのためには、県民の皆さん一人ひとりが、次世代育成支援の必要性等について深く理解し、自身の問題として主体的に取り組むことが何より大切です。この計画がそのための指針として活用され、県全体に自主的な取組の輪が広がることを期待します。

第1節 家庭や地域、学校、企業等の役割

① 家庭の役割

家庭は、子どもを養育する基本的な場です。愛情あふれる温かい雰囲気の中で、家族一人ひとりが子育てについて責任を持ち、お互いに助け合うことにより、子どもを一人の人間として尊重し守り育てるとともに、基本的な生活習慣や社会的な規範を身につけさせる必要があります。

② 地域の役割

地域は、子どもの社会性や自主性を養う場です。子育て家庭に、より身近な場であることから、住民が相互に助け合うとともに、ボランティアやNPOなどの人材をはじめ、既存の設備や自然環境といった地域の資源を活用し、子どもの健やかな育ちや子育てを支援するための仕組みづくりを推進していく必要があります。

③ 学校等の役割

保育所や幼稚園、学校は、子どもが家庭以外で最も長い時間を過ごす場所です。様々な体験活動を通して、社会の一員として必要な習慣や規範を身につけさせるとともに、家庭や地域と連携し、子どもが自らの存在を実感できるよう、その個性に応じた教育を行う必要があります。

④ 企業等（事業主）の役割

子どもを生み育てやすい環境づくりを推進するためには、家庭や地域のみならず職場のあり方も極めて重要です。

事業主は、次世代育成支援対策の成否が将来の企業等の存立にも影響する自らの問題であることを認識し、就労環境を整備するなどの取組を積極的に推進していく必要があります。

また、次世代育成支援対策推進法において、常時雇用する労働者が300人を超える企業については一般事業主行動計画の策定及び届出が義務づけられており、300人以下の企業についても、努力義務とされていることから、速やかな策定・実施が期待されます。

（注；平成21年の法改正により、平成23年4月1日以降は101人以上の企業についても義務化されます。）

第2節 県の役割

① 集中的・計画的な推進

次世代育成支援対策は、県政において早急に取り組むべき最重要課題であり、この計画に沿って、集中的かつ計画的に推進します。

また、庁内の関係部局が連携を密にするため、副知事を会長とし、各部局長等で構成する「大分県次世代育成支援対策推進会議」において各種施策を総合的に推進するとともに、毎年度、計画の進捗状況等についての点検・評価を行います。

② 市町村との連携

次世代育成支援対策のための行政施策の多くは、県民の皆さんに最も身近な市町村によって実施されており、市町村における主体的な施策の実施が重要です。

県は、市町村と緊密な連携を図りつつ、各市町村において策定された行動計画の推進を積極的に支援します。

③ 国との連携等

次世代育成支援対策を推進するためには、子育てと仕事の両立を図るための働き方の見直しや、子育てに係る経済的負担の軽減など、国において制度の改善や必要な財源措置等を行うことが重要です。

県は、国に対し、地域の実情等について適宜情報発信するとともに、全国知事会等あらゆる機会を通じて、必要な提言や要望等を行います。

④ 県民参加と情報公開

次世代育成支援対策が全県的な広がりの中で展開されるよう、一般公募で選ばれた方や、県内各種団体の代表、学識経験者等で構成する「おおいた子ども・子育て応援県民会議」（平成17年4月1日設置）の協力を得ながら、取組を推進します。

また、この計画の内容や毎年度の進捗状況、また、「おおいた子ども・子育て応援県民会議」における委員の意見等について、県ホームページ「大分県次世代育成支援のページ」で公表するなど、県民の皆さんへの周知に努めます。

「大分県次世代育成支援のページ」 (<http://www.pref.oita.jp/site/jisedai/>)

「つたえたい！私たち子どもの思いキャンペーン」

「新おおいた子ども・子育て応援プラン」を策定するに当たり、子どもの思いやニーズを把握するため、「つたえたい！私たち子どもの思いキャンペーン」をNPOの方々の協力を得て、平成21年7月6日（月）から8月20日（木）にかけて実施しました。

「おとなにいいたいこと」や「わたしのねがい」、「親になるために大切なこと」など、305名の皆さんから色々な思いや願いを聴くことができました。

また、学校や研修の場に出向いて、直接子どもたちの声を聴く「子どもの思いワークショップ」も併せて実施し、こちらには257名の皆さんが参加してくれました。

キャンペーンを通じて寄せられた皆さんの声は、私たち大人へのメッセージとして、プランの策定や取組に反映させるとともに、この冊子の随所でご紹介しています。

◆「子どもの思いワークショップ」開催状況

時 期	内 容
8月2日	大分県少年の船ヤングスタッフの集い 高校生スタッフの皆さん 28名
8月20日	豊後高田市立桂陽小学校4年1組の皆さん 38名
8月21日	佐伯市佐伯児童館の皆さん（小学4～6年生、高校生） 19名
8月24日	大分市立明野中学校バスケットボール部（中学2年生）の皆さん 12名
9月14日・24日	大分県立日出陽谷高等学校1年生の皆さん 160名
延べ参加児童生徒数 257名	

